

蓮池薫さんからの手紙 「中央大学のみなさまへ」

中央大学のみなさまへ

私たちは、拉致されて25年目の夏を迎えました。
帰国は10ヵ月に及びますが「拉致」は
いまだ続いています。子どもたちが帰ってくるに
は本当の「帰国」はありません。

「中大生を救う会」を始め中大関係者の
みなさまは長年私たちの救出と子どもたちの
帰国のために運動してくださりました。私の
両親が一番苦しい時に精神的に支えてく
ださりました。改めて心から感謝申し上げ
ます。

これから子どもたちの帰国をめざしがんばります。
ご支援の程 よろしくお願ひします

平成15年 7月31日

蓮池薫
祐木子

蓮池薫・祐木子夫妻から手紙が寄せられた。日付は25年前、拉致された同じ日、平成15年「7月31日」。

これに先立ち、角田邦重・中央大学学長は、「北朝鮮に拉致された中大生を救う会」の渡部一実代表幹事を通じて、蓮池さんへのメッセージ（30ページ）を届けた。

1978年7・31 拉致事件発生
2002年9・17 日朝首脳会談

10・15 5人が帰国

03年3・14 蓮池夫妻、母

校訪問

法学部3年次で拉致された蓮池さんの「復学問題」。25年ぶりに訪れた多摩キャンパスでもこの問題が話し合われた。蓮池さんの手紙は、「子どもたちが帰ってくるまでは本場の『帰国』はありません」と、「復学問題」も「本当の帰国」後になることを示唆している。「白門は君を迎えるため、いつでも開けております」との学長メッセージは大学側の姿勢を改めて表明したものである。

そして、25年めの夏――。「北朝鮮が子どもを帰国させる意向」との複雑な情報も交錯するなかで、8月末「6カ国協議」がスタートした。